

勝央町 部活動の地域展開に関する 生徒向けアンケート 分析報告書

認定地域クラブ制度設計のための基礎資料

対 象

勝央中学校 生徒

有効回答

250件

実施時期

令和8年7月上旬～中旬

第4回 勝央町地域クラブ活動推進協議会 報告資料

2026年7月（令和8年）

1 調査の概要

調査概要

背景と目的

勝央町は令和8年9月から休日の部活動を廃止し「認定地域クラブ」へ移行、令和9年度には平日も廃止する方針。

本調査は勝央中学校の生徒を対象に、参加意向・希望種目・放課後の過ごし方・移動手段等を把握し、制度設計（種目選定・活動日・待機場所・送迎対応）の基礎資料とする。

調査方法・回収状況

対象	勝央中学校 生徒
実施時期	令和8年7月上旬～中旬
方法	Webフォームによる回答
有効回答数	250件（全校の意識を概ね反映）

設問構成（Q1～Q9）

Q1 学年・性別

Q2 所属部活動

Q3 校外での定期活動

Q4 やってみたい活動（複数選択）

Q5 空き時間ができた場合の参加意向

Q6 待機の仕方（Q5で1・2選択者）

Q7 移動手段

Q8 希望する活動日

Q9 自由記述

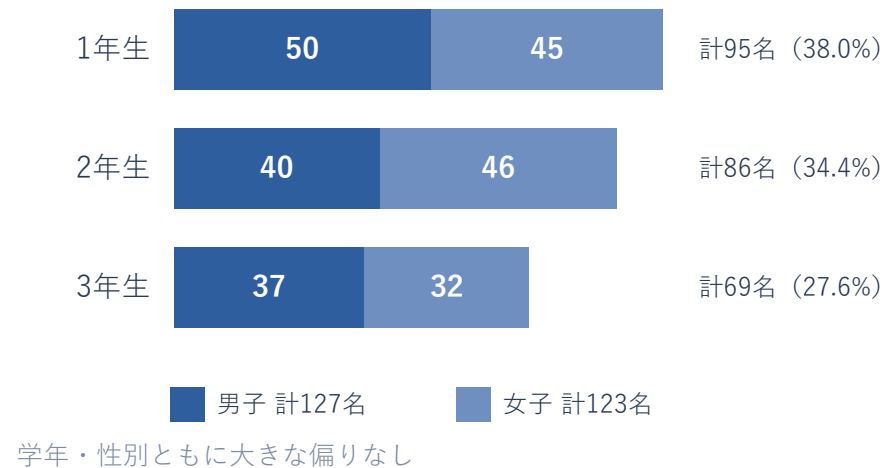
本調査の限界（結果解釈上の留意点）

- ・ 地域展開への「賛否」を直接問う設問はなく、参加意向・希望活動日を代理指標とした
- ・ 「懸念・不安」の選択式設問はなく、Q6・Q7・Q9から間接的に抽出
- ・ 居住地区・費用負担感の設問がなく、送迎格差の地理的分析は不可

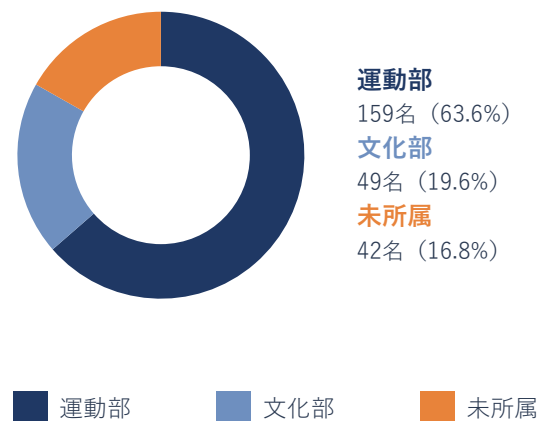
2 回答者の属性

Q1・Q2・Q3

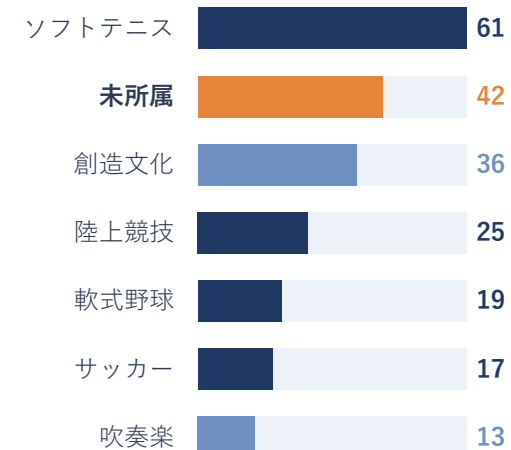
学年×性別（N=250）



所属の大分類



所属部活動（上位）

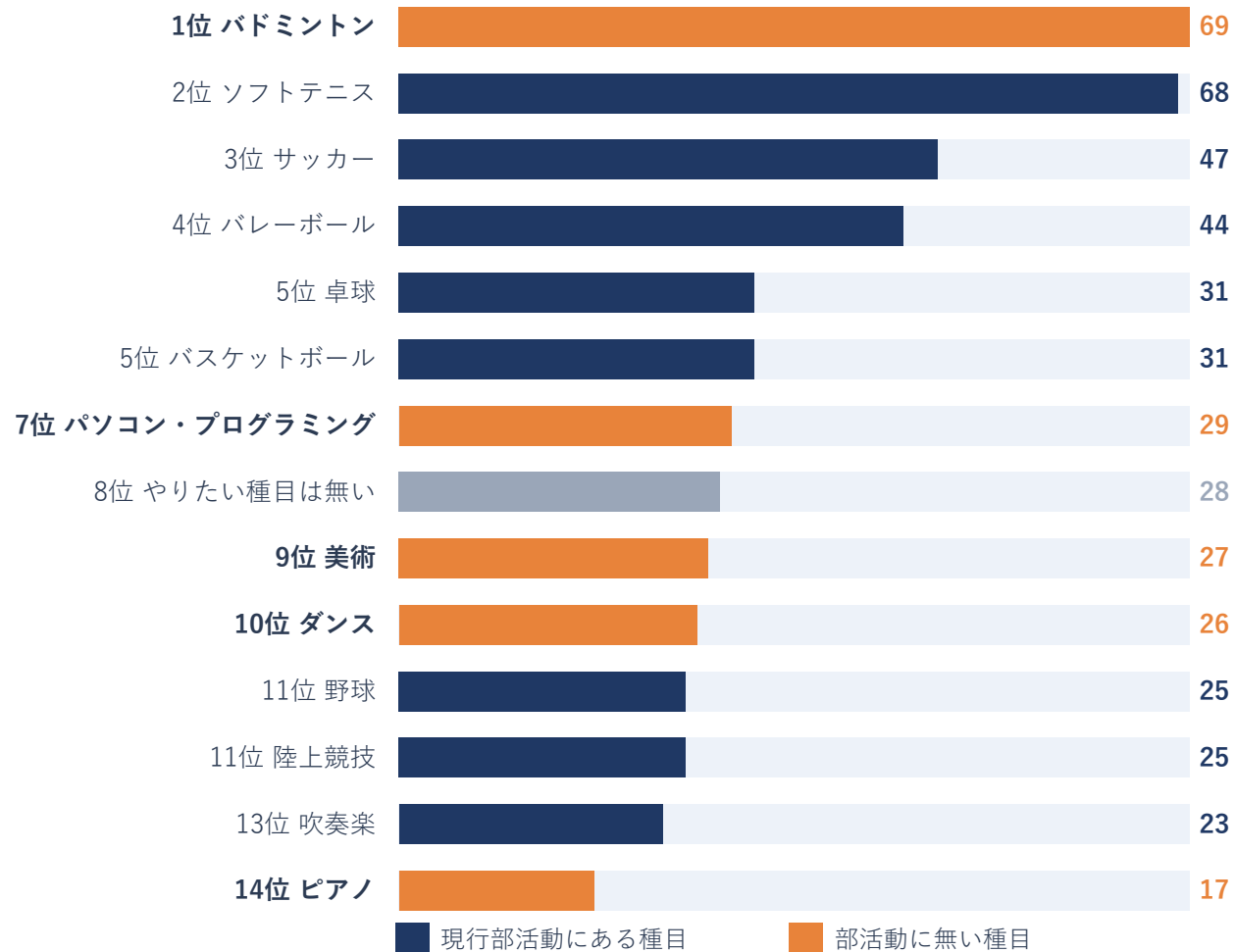


校外での定期活動（Q3）



着眼点

部活未所属42名は2番目に大きな塊。学校部活動では拾えなかった層であり、地域クラブの「新たな受け皿」対象として無視できない規模（→ p.10で詳細分析）。



需要1位は、部活動に存在しない種目

バドミントン

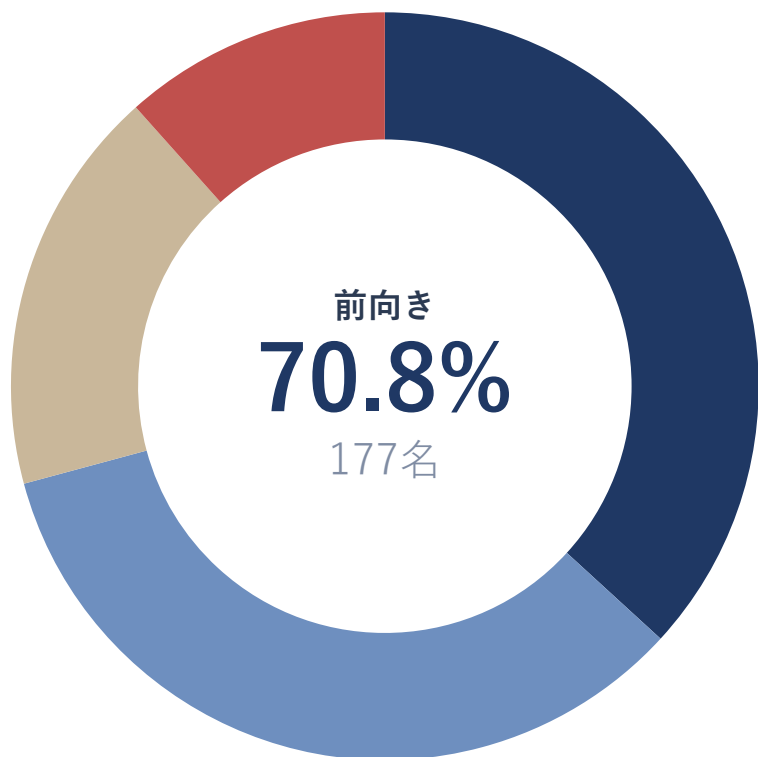
69件（回答者の27.7%）

現行部活に無い種目（オレンジ）が上位に多数。地域展開は既存部活の「移行」だけでなく「新設」の好機。

スポーツ系・文化系が混在

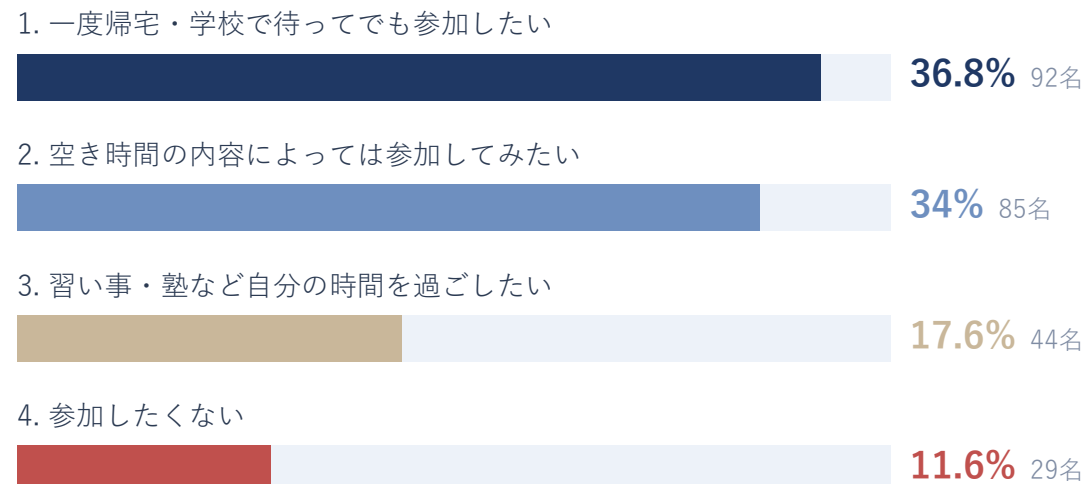
茶道14／空手12／箏9／書道9／押し花8／太鼓8／なぎなた8／剣道7／手話7／着付け6／ボランティア6／柔道6 など

※その他の記入：弓道・硬式テニス・ドッジボール・バンド等16件



エグゼクティブサマリー1 | 前向き = 「1. 参加したい」 + 「2. 内容によっては」

回答内訳



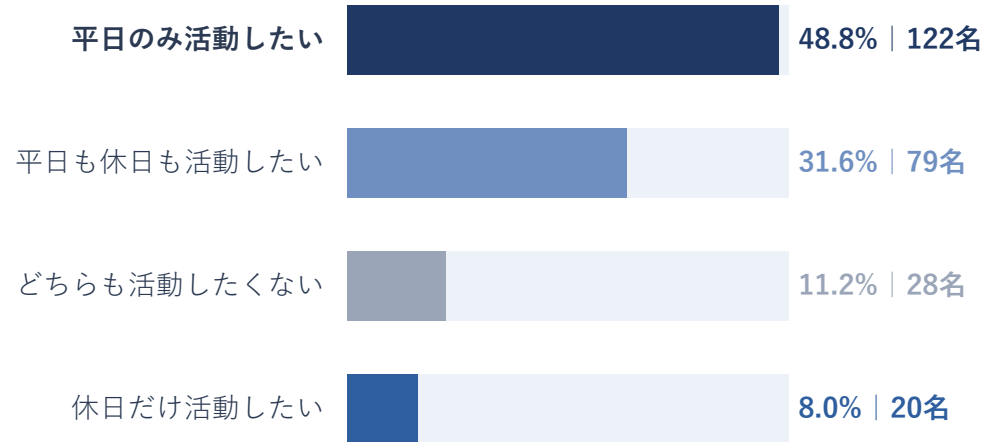
読み取り

- 「2. 内容によっては」は条件付きの流動層。待機環境・活動内容次第で参加が左右される
- 約3割（73名）は地域クラブ以外の放課後を望む。「全員参加」を前提としない設計が必要

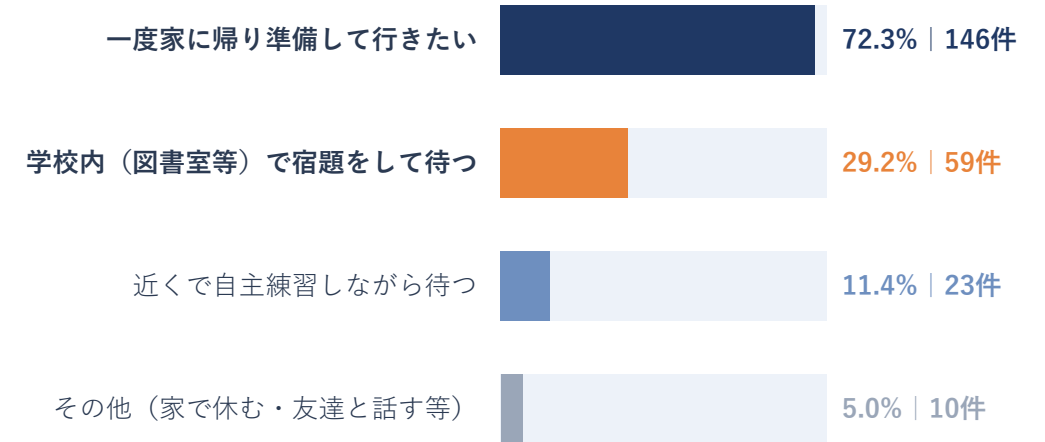
5 希望する活動日と待機の仕方

Q8・Q6

希望する活動日（Q8・N=250）



空き時間の待機の仕方（Q6・回答202名 複数回答）



※設問はQ5で1・2を選んだ人向け（回答202名・回答者比）

39.6% (99名)

休日の活動を望む生徒

令和8年9月に先行する休日クラブの需要規模は全体の4割弱。現行部活動の全部を休日に引き写す必要はない？

約3割

学校内待機スペースを希望

「一度帰宅」が主流だが、図書室・学習スペースの放課後開放には具体的な検討価値がある。

6 活動場所への移動手段

Q7 (N=250)

60.4 % 151名

自力で通える

自転車・徒歩で通える（うち41名は「送迎も可」を併記）

30.4 % 76名

送迎してもらえれば通える

家の人の送迎が前提。保護者負担と表裏一体

9.2 % 23名

学校以外だと通うのが困難

送迎が頼めない等。学年に偏りなく存在（1年8・2年6・3年9）

全体

60.4%

30.4%

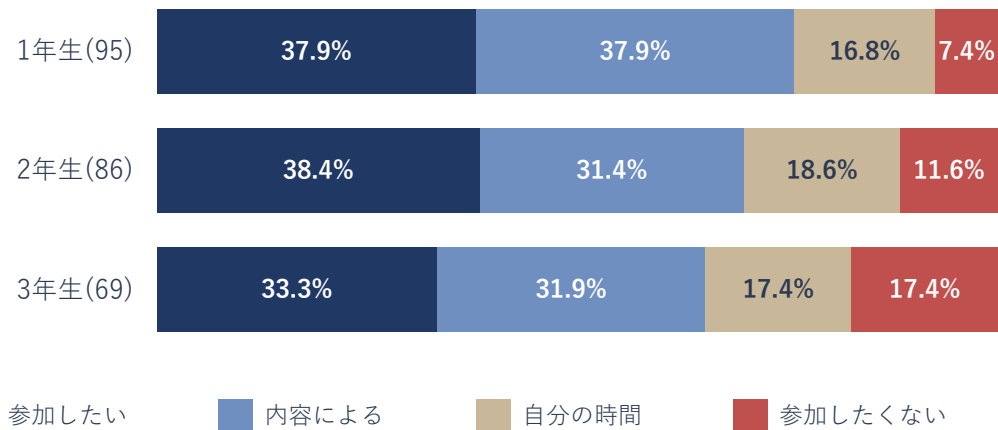
9.2%

約1割の「移動困難層」は、送迎支援や会場配置がなければ活動が困難？ → 送迎格差が参加意向に与える影響は p.12 で定量化

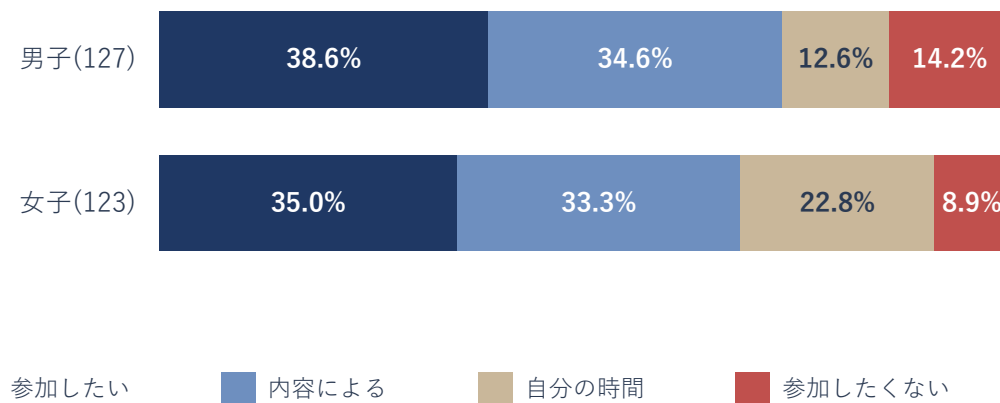
7 学年・性別による参加意向の違い

Q1×Q5 クロス集計

学年別（100%積み上げ）



性別（100%積み上げ）



学年が上がるほど「参加したくない」が増加

7.4%（1年） → **17.4%**（3年） = 約2.4倍

受験期の3年生には参加を前提としない選択肢（休養・学習の場）が必要。移行完了時の主役となる現1年生の意欲が最も高いのは追い風。

女子は「自分の時間」志向が男子の1.8倍

22.8%（女子） **12.6%**（男子）

女子のニーズはスポーツ一辺倒でない。文化系種目（ダンス・美術・ピアノ等）や柔軟な参加形態と併せた設計が有効。

8 所属別の参加意向と「部活未所属層」の可能性

Q2×Q5

所属別 前向き層の割合



「参加したくない」：運動部8.8%／文化部12.2%／未所属21.4%

読み取り

- ・ 運動部員の意欲が最も高く、移行の中心軸
- ・ 文化部・未所属は前向き層が6割前後にとどまり、「競技の受け皿」だけでは取りこぼす可能性

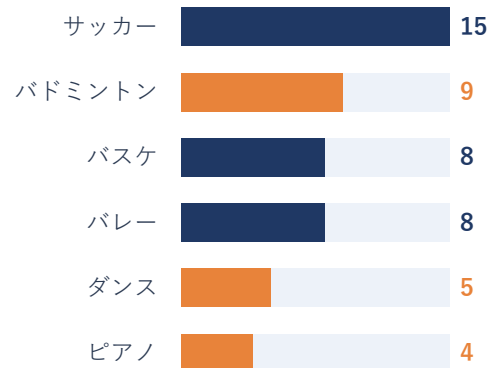
部活未所属層 42名の分析 — 新たな受け皿

57.1% (24名)

地域クラブなら参加してみたい

現在部活に入っていない生徒の半数以上が前向き。学校部活動では拾えなかった層に、新規参加を生む余地。

やりたい種目（上位）



希望する活動日

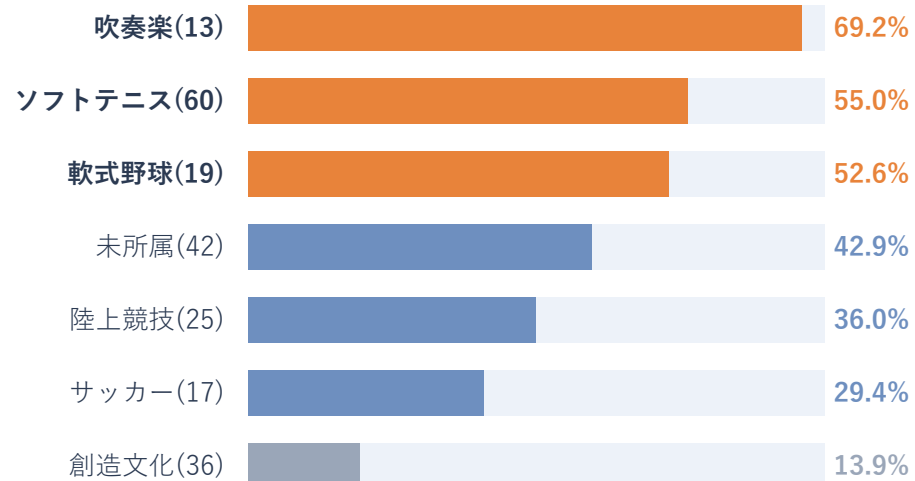
平日のみ	15名
平日+休日	13名
休日のみ	5名
活動したくない	9名

「ゆるく参加できる」設計であれば新規参加の余地が大きい

9 部活動別の休日ニーズと継続希望率

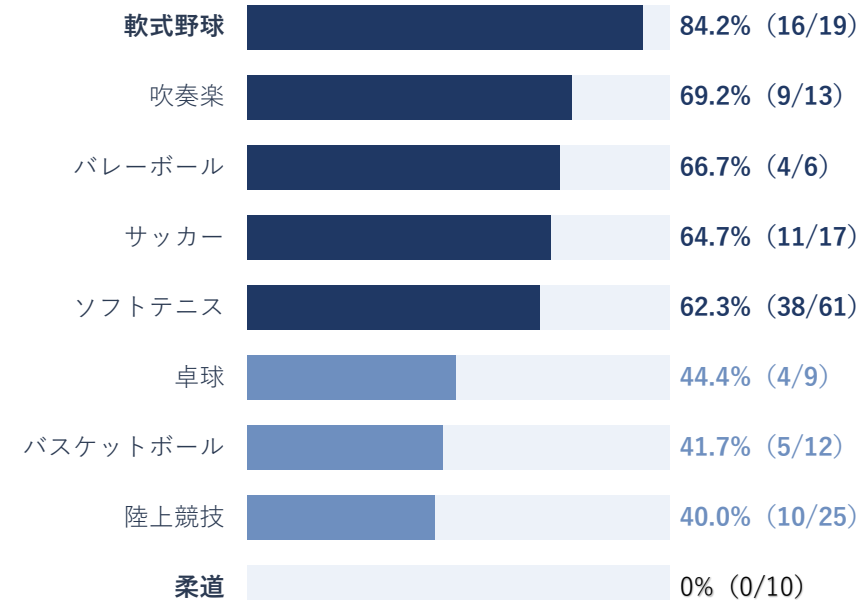
Q2 × Q8 ・ Q2 × Q4

休日ニーズ計（平日+休日 + 休日のみの合計）



休日クラブの需要は吹奏楽・ソフトテニス・野球に集中 → 休日移行の初期はこの3種目を優先すべき根拠。創造文化（文化部）は圧倒的に平日志向。

継続希望率（現部活と同じ種目をQ4で選択）



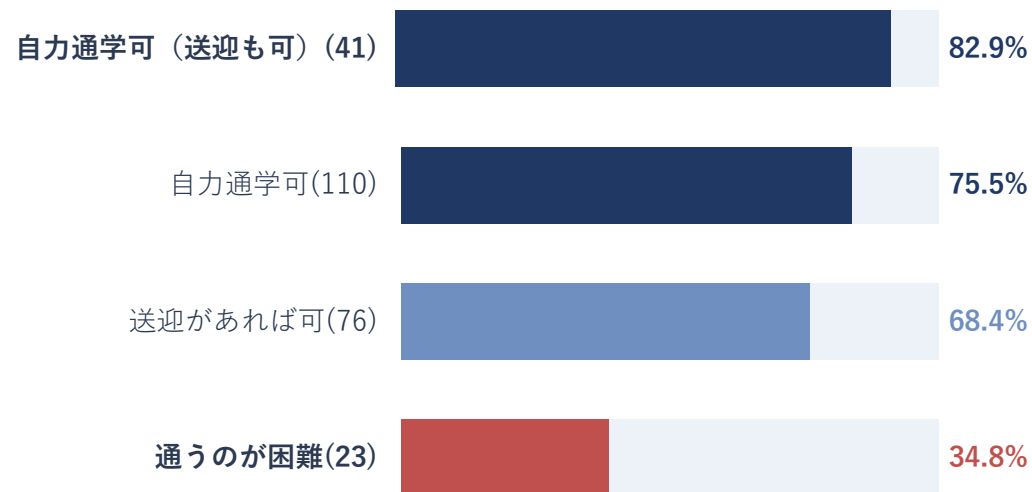
柔道部員10名は別種目を希望

種目により「移行」ではなく「転向」が起きる可能性も。継続希望の低い種目は、合同化・レク化・種目転換の検討が必要か。

10 送迎 — 移動手段が参加意向の最大の分岐要因

Q7×Q5

移動手段別 前向き層（参加してみたいと回答した人）の割合



移動手段が確保されている層ほど参加意欲が高い。参加意欲と移動手段の確保は強く連動。

「通うのが困難」層 23名では

52.2%

が「参加したくない」（全体では11.6%）

過半が参加意欲がない。困難層は学年に偏りなく存在（1年8・2年6・3年9）。

急務となる対応

会場の学校施設利用の最大化

A

部活にあり、需要も高い

部活動からの「移行」優先候補

ソフトテニス 68／サッカー 47
バレーボール 44／卓球 31
バスケ 31／野球 25
陸上 25／吹奏楽 23

特に吹奏楽・ソフトテニス・野球は休日ニーズが高い。

B

部活に無いが、需要が高い

「新規クラブ組成」の候補

バドミントン 69
パソコン・プログラミング 29
美術 27／ダンス 26
ピアノ 17／茶道 14／空手 12

地域人材との接続で実現可能性が高い？

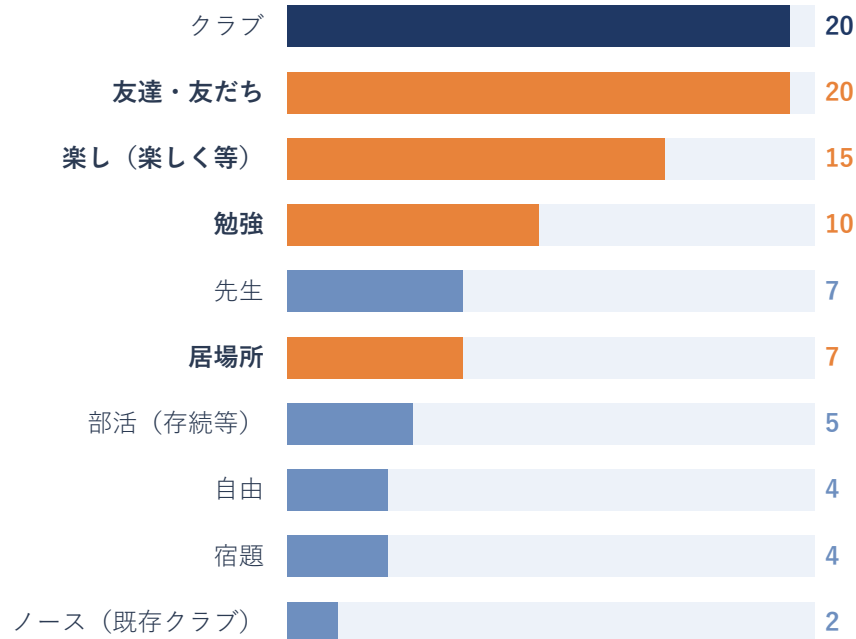
参加見込み規模の目安

母数は前向き層177名（70.8%）。コア層（1.参加したい×平日も休日も）55名＋条件付き層（平日中心）約120名。バドミントンは前向き層内でも最大需要で、1クラブで30～50名規模の参加が見込める可能性。

12 自由記述の分析 — 生徒の関心は「居場所」

Q9（92件・回答率36.8%）

キーワード出現頻度（件数＝言及回答数）



0 件

「遠い」への言及

0 件

「お金」（費用・月謝含む）

生徒の言語化された関心は距離・費用ではなく「誰と・どんな雰囲気でお過ごしですか」に集中（※費用は保護者側の関心事の可能性が高い）。

数値データとの突き合わせ

記述は前向き層から67件・消極層から25件。消極層の記述の多くは「参加拒否」ではなく、勉強・友達と過ごせる別形態の居場所要望。Q5の消極29.2%は地域展開への「反対」ではない。

自由記述の最多群 「競技」ではなく「居場所」への言及 友達とのおしゃべり／静かに勉強できる場所／ゆるく楽しく ― が最も多い声。

13 生徒の声（自由記述より）

Q9 テーマ別分類

居場所・待機場所（最多群）

「学校や学年の違う友達と、おしゃべりなどをして楽しく過ごす場所が欲しい」

「静かな場所で、宿題や勉強、読書などを行う居場所が欲しい」

ゆるさ・楽しさ志向

「そこまでまじめで本気でするんじゃなくてみんなで楽しくできるようなクラブがいい」

「上手い下手に関わらず楽しく続けられることがしたい」

多様な体験への期待

「複数のクラブに加入して、様々な活動をしたい」

「ちょっとかじってみるだけやってみたい」

競技継続・指導の質

「ちゃんとした指導者のもとでクラブなどの活動をしたい」

「運動の地域クラブで試合にも出たい」

現状維持・部活動存続

「部活動はなくなるでほしい」

「土日も平日も、今の顧問に続けてやってほしい」

休養・自由時間の要求

「休みなら休みの日にしろ。自由な時間ぐらいくれ」

「ずっと寝たい」

※引用は原則原文のまま（明らかな誤字のみ修正）。個人が特定される情報は含まれていません。

14 主要な調査結果（5つのポイント）

エグゼクティブサマリー

70.8%

参加意向は前向きが7割

「参加したい」36.8%+「内容によっては」34.0%。一方、約3割は習い事や休養など地域クラブ以外の放課後を望む。

69件

需要1位は部活に無いバドミントン

プログラミング29・美術27・ダンス26など現行部活に無い種目に厚い需要。**地域展開は「移行」だけでなく「新設」の好機。**

48.8%

平日ニーズ > 休日

「平日のみ活動したい」48.8%に対し休日を含む希望は39.6%。先行する休日の受け皿は部活動より小さい規模で足りる可能性。

52.2%

「通うのが困難」層も一定数存在

移動困難層23名（9.2%）の52.2%が「参加したくない」（全体は11.6%）。

27件

生徒の関心は「居場所」

自由記述の最多群は友達・勉強・ゆるさ等の居場所要望。「遠い」「お金」への言及は0件で、**関心は人間関係と過ごし方にある。**

15 結論 — 「3層構造」の制度設計を

事業判断への示唆

生徒の7割は参加に前向き。ただし求めているのは「部活動の代替」だけではない。次の3層で設計することが参加率と満足度を最大化する。

1 競技クラブ

需要の高い既存種目の移行＋バドミントン等の新設。休日移行は吹奏楽・ソフトテニス・野球から。中体連大会参加は競技コースで担保。

根拠：Q4需要上位／休日ニーズ／継続希望率

2 エンジョイ型活動

「ガチじゃなく楽しく」に応える、上手い下手を問わないゆるい活動。クラブ内コース分け（競技/エンジョイ）または別クラブ化。

根拠：自由記述②群／条件付き層85名の存在

3 居場所クラブ

友達と過ごし、勉強もできる自由参加の場（おしゃべり・自習・レク）。図書室等の放課後開放と一体で設計。消極層の相当数を取り込める。

根拠：自由記述最多群／学校内待機希望29.2%

全層に横断する2つの条件

移動困難層（9.2%）への対応

学校施設の活用

「参加しない自由」の保障

全員参加を求めない広報。受験期の離脱を許容する柔軟な会員制度。休養の保障（ガイドラインの趣旨とも整合）

3層の受け皿と、移動困難層への対応・「参加しない自由」の保障 — 制度の公平性はこの2点が左右する

16 協議会論点との接続 ― 調査結果と想定される打ち手

第7章

協議会の論点	本調査から言えること	想定される打ち手
放課後の居場所・待機	学校内待機希望59名（29.2%）。自由記述最多も居場所	図書室等の放課後開放等。第三の居場所や公民館など、他の主体（資源）との協働した事業の実施（＝部活動の地域展開とは別建てで実施または広報）
送迎格差	困難層23名の52.2%が参加に後ろ向き。送迎依存76名（30.4%）	学校施設・徒歩圏の会場を最優先。
平日／休日の設計	休日ニーズ約4割。吹奏楽・ソフトテニス・野球に集中	R8.9の休日移行は需要の高い種目から段階的に
新規クラブの種目選定	バドミントン69（需要1位・部活なし）、プログラミング29、ダンス26	新設候補として指導者募集・会場確保を検討する余地
参加を望まない生徒	消極層29.2%。3年生の「参加したくない」17.4%	全員参加を求めない広報。受験期の離脱を許容する会員制度
競技志向とゆるさの両立	「試合に出たい」と「ガチじゃなく楽しく」が併存	多様なクラブの用意、広報
既存活動との共存	半数が校外活動あり。既存クラブへの増回要望も	クラブチーム・習い事・スポ少を認定制度に取り込む/連携
複数クラブ加入	「複数のクラブに入りたい」の声が複数	兼部を認める会員規程